

医師の方へ

本患者は、ウォータージェットでけがをしています。
けがの判定及び処置は、射撃によるけがの場合と同様です。

けがを外部から見ただけでは内部がどのくらい損傷を受けているか予想できません。

最初の処置としては安定化及び神経血管の検査を十分行って下さい。

けが現場に入った皮下の空気や異物を調べるのにレントゲンも必要かもしれません。

ひどい場合は神経、筋肉、血管などの極度の損傷の可能性もあり又、末端隔壁腔症候群を招く場合もあります。

胴体をけがした場合は内臓損傷のおそれもあります。

このような場合は外科手術となる場合もあり又、多量の澗注剤及び挫滅組織切除を受ける場合もできます。

外科的除圧手術や診査の必要性もあるでしょう。
動脈損傷が疑われる場合は、手術前に血管の検査をして下さい。

痛み、浮腫、皮下気腫を和らげる補助的治療法としては、これまで吸湿性溶液(MgSO₄)をしみ込ませた包帯や

高比重酸素治療などが使用されてきました。

これまで低温での好気性微生物感染の発生が報告されたことがあり、これは下水等で見つかる

グラム陰性病原体の可能性があります。従って、

細菌の収集及び血液培養をした方がいいかもしれません。

重要！

ウォータージェットによる事故が起こった際にはこのカードを医師に見せて下さい。

警告！

ウォータージェットでのけがは重傷になる場合があります。
ウォータージェットでけがをした場合はいかなる場合も必ず：

- 後回しにせず、速やかに医師の診断を受けて下さい。
- けがの原因を医師に知らせて下さい。
- 医師にこのカードを見せて下さい。
- 事故が起こった時に行っていたウォータージェット作業と使用していた水の水源を医師に話して下さい。

発行元

高圧ウォータージェットテクノロジー連盟

917 Locaus Street, Suite 1100

St. Louis, MO 63101-1419

TEL: (314)241-1445

Fax: (314)241-1449

アマノ機工株式会社

愛知県豊田市堤町野中30番地

TEL 0565-53-1080

FAX 0565-53-8833